奉祝　天皇陛下御即位三十年

山梨県神社庁報

かえがね

祝祭日には国旗を掲げましょう

2月11日　建国記念の日
3月21日　春分の日
4月29日　昭和の日

第180号（平成30年1月20日）

北口本宮冨士浅間神社　恵毘壽社御神像（重要文化財）

謹賀新年

庁長	根津泰昇
副庁長	小佐野正史
同	佐々木高仁
本庁評議員理事	古屋真弘
支部長理事	秋山忠也
同	日原盛幸
同	志村重治
同	市川行治
同	塚川宣行
同	森越義建
同	上文司厚
同	渡邊學
神政連本部長理事	渡邊平一郎
協議員会議長理事	小山利行
教化委員長理事	中村宗彦
指名理事	桃井一祝
神青会長理事	遠藤倫生
総代会会長理事	中込豊秋
総代理事	中田欽哉
顧問	羽中田進
監事	深澤哲夫
参事	野田武
主事	飯田直樹
補録事	金子雄紀
同	深澤宜彦
山梨県神社総代会役員	佐藤忍
神道政治連盟山梨県本部役員	同
山梨県神道青年会役員	同
山梨県教育関係神職協議会役員	同
山梨県女子神職会役員	同
山梨県神職保護司会役員	同
山梨県敬神婦人連合会役員	同
山梨県神道雅楽会役員	同
山梨県氏子青年協議会役員	同

新春を迎えて

庁長　根津泰昇

皇紀二千六百七十八年、畏くも天皇陛下が御即位遊ばされてより三十年目の佳き年を迎え、皇室の弥栄と神社関係者の益々のご隆昌を謹んでお祈り申し上げます。

昨年は神社庁の施策に対し、御理解、ご協力を賜り恙なく遂行出来ました事に厚く御礼申し上げます。

天皇皇后両陛下におかせられましては、御即位より常に国民の幸せと国家の繁栄、そして世界の平和をお祈り下され、数多くの御公務にお励みになられております中で、九州地方の集中豪雨災害に、いち早くお見舞いに行幸啓遊ばされました事は畏き極みでございます。私たちは大御代の弥栄を祈念し、皇室をいただく日本国の国柄が次代に正しく継承されていくことを心より願うものであります。

神宮におかれましては、昨年黒田清子様が祭主様に、大宮司様には小松揮世久様が御就任されました。次の時代を見据えた御就任と拝察いたします。

昨年十月二十八日には、十五年後に行われる第六十三回の神宮式年遷宮の最初の行事であります、御用材に用いるヒノキを始めて伐採する神事「斧入式（おのいれしき）」が長野県で斎行されました。除々にではありますが次回の遷宮が動き出しております。

参宮者も昨年は九百万人を超える人々で賑わいを見せたようであります。少子高齢化の時代を迎えておりますが、神宮には若い家族連れや、若い世代の方々の姿が見受けられます。神宮人気が高まる事は何よりです。

山梨県神社庁といたしましては、不活動神社対策委員会、過疎地域神社活性化推進委員会の充実を図り、速やかな結果を求めていきたく存じます。

不活動神社対策委員会は、小委員会が構成され、対策方法が議論されております。又東山梨支部においては支部内に不活動の対策委員会が設置されました。関係者にご理解とご協力を頂いて、少しずつではありますが前進しております。本年度には成果が表れます事に期待を寄せております。

過疎地域神社活性化推進委員会は、神社本庁より指示がありました過疎神社指定地域も決定いたしました。甲府御岳町金櫻神社を本務とする黒平の黒戸奈神社に古来より伝わる甲府市無形文化財の三番叟神楽を指定致し、すでに本務宮司さんを始め、関係者にお集まりを頂き、委員長より詳細を説明し、御了解を賜りました。今後は人口減少の黒平地域で一日も早く復活に向けての活動に期待いたしております。

大麻頒布に関しましては、全国でも減少気味ではありますが、先に記述しました通り本宗の神宮では若年層の参拝者が増加しております。この様な参拝者に大麻奉斎発揚も必要かと感じます。

山梨の地方都市に於いては、私達神社関係者が真剣になり、神棚の設置を呼びかけ、「目に見えない尊さ」を教化せねばなりません。そして神宮大麻を始め、氏神様、崇敬神社の御札の奉斎を呼びかける事が、不活動神社の解消、過疎地域神社の活性化に繋がる要因ではないかと存じます。

今年は戊戌（つちのえいぬ）・九紫火星歳です。

戊戌は犬の中でも野犬（のらいぬ）を意味します。自然のままの犬でありますので、自由奔放で粗野な行動が見られます。自由気ままのところがあるので気を引き締めることにより、良き方向に舵取りが出来るでしょう。

九紫火星は、善かれ悪しかれ物事や人間関係に離合集散と真実の姿が表面化する作用があり、表面は華やかさがありますが、内面は空虚となる特徴がある年です。従って地道に努力を惜しまない気持ちを強く持つことにより万事が改善されることでしょう。

戊犬・九紫火星を合わせると、気を引き締めて、努力を惜しまず生活することにより、仁徳の称賛を得たり、万事に栄誉を受けることでしょう。

神社関係者各位には、この一年神様の御神縁が授かり平安安泰にお過ごしになられますことご祈念申し上げ新年の御挨拶といたします。

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

新春を迎えて

山梨県神社総代会
会長　中込豊秋

平成三十年、明けましてお芽出度うご座居ます。各位におかれてはお健やかな新しい年を迎えられたと思います。

昨年は県総代会の事業にご協力を頂き有難うご座居ました。本年も更なるご協力並にご協賛をお願い申し上げる次第であります。

畏くも天皇陛下におかれましては一昨年八月国民にお気もちを語られて以来、ようやく昨年十二月皇室会議に於いて正式に御譲位が来年四月三十日に決定されました。なお翌日五月一日皇太子さまが御即位なされます。天皇皇后陛下におかれましては、三十余年国民と共にあられ、災害時には必ずその場所を訪れ、被災者を親しく励まされました。また遠く激戦の地におもむき、犠牲になられた英霊に対しては、内外問わず慰霊の誠を尽くされるお姿に感慨を覚える次第であります。御譲位後は、両陛下には余生をご静穏にお過ごしなされることを心よりご祈念申し上げる次第であります。

昨年十月に行われました衆議院選において与党が三分の二の議席を得て、いよいよ憲法改正を実現する機会であります。

昨年十月日本会議設立二十周年記念大会には全国より二千名、超党派国会議員六十余名、各界名士多数より提言もあり、最後に綱谷道弘理事長より、誇りある国づくりを目差す国民運動への参加を青年達にも呼びかけ、世代を超えて力強い運動へと決意が語られました。この大会に参加して、心新たに憲法改正の必要性に思いを更に深めた一日でありました。

本年の経済は統計によると期待が持てるように思われます。特に輸出産業は二十年振りに高収益をあげ、政府は内部留保を図る企業に課税をとの方針ですが、高収益ある企業は下請企業に収益を与えるべきであり、それにより設備投資を促す、この両面で効果が見込まれます。

日銀甲府支店の発表に依ると山梨はＩＴ産業の業績は好調であり、消費も持直しつつあり、一部の業種は設備投資が行われておるようです。我々は実感が伴っていないのが現状であります。しかし少しは明るい年になりましょう。只大きな問題は人口減少等による労働者不足により、特に中小企業は大企業に若者が引かれ、企業経営が困難を極め、仕事はあるが人手不足で、やむなく廃業を思考する状況であり、多業種の中小企業は危機的な問題であります。

本県神社界最大の課題である不活動神社対策、昨年末一社あたりの手続き費用が示されました。現段階では前後の費用は不明であります。要因は実動なき故であり、なお解決方法のモデルも無い状況であります。実動あれば支部会等で中間報告をして、多くの総代各位の認識を深め、理解を得て参り度いと願う次第であります。

国旗掲揚推進委員会は昨年十一月山梨市民会館にて絵画コンクールを実施しました。本年は国旗を中心とした当初計画の通りの絵画コンクールを検討して参り度いと思っております。不活動神社対策事業協賛金については、ここで区切りをつけ、対策事業委員会の動静をみて、動きに合わせて再募集を検討して参り度いと思案しております。神社界多難な折、変化に応じた対応を願い、本年は良い一年であること祈念申し上げます。

本庁十月定例評議員会

本庁評議員　古屋真弘

去る十月十九日午後一時から、神社本庁大講堂に於いて、定例評議員会が開催された。本県からは根津庁長、中込総代会長、古屋本庁評議員の三名が出席した。

開会儀礼の後、北白川統理から今年六月に神宮祭主に黒田清子様が、七月に神宮大宮司に小松揮世久氏が就任された事に触れながら開会挨拶がなされ、来賓の神道政治連盟服部幹事長から挨拶がなされた。

次に中山議長が登壇し、田中総長から小串和夫副総長の副総長、理事の辞任の報告がなされた。

議事に入り、最初に百合丘職舎売却について設置された「調査委員会」の報告が國分正明理事からあった。その中で、売却については価格も含め、妥当であったとしながらも、本庁への提言として、慣例主義の傾向が強い、評議員会、役員会でより具体的に審議すべき、監事のチェック機能は働いていたか、財務規定に入札に対する細則が定められていないのは不備、内部通報の方法など意見が述べられた。次に渋谷監事から監査機関として体制整備を行っている旨の方向があった。

この件の質疑に入り、「一連の問題について役員会では協議を行ったかの」の質問に対し当局から「今後は十分な議論の時間をかける」旨の回答があった。次に「契約方法と調査委員会からの提言に対する対応」についての質問がなされ、当局から「行政機関の入札に対する規定などを参考に細則の作成に向けて取り組む」等の回答があり、「一般報道に対する抗議文や訂正文、総代会等に対する懸念を払拭するための総長談話等を発信する事が必要」との意見に対し、当局から現時点で法的手段は考えていないが、検討した上で取り組む旨の回答がなされた。

質疑の後、中山議長から議長団を代表し「疑念の生じた所の見直しを行い信頼関係を取り戻す事に全力を尽くすべき」との意見が表明された。

次に小串理事の辞任に伴う補欠選挙が行われ、愛知県神社庁長の牧野武彦氏が選任された。

次に自由討論が行われ、長崎の吉村評議員から「過疎地域の神社活性化が斯界を救う」と題した発表が行われ、祭りを通した「関心共同体」作りの実例が示された。

以降、「平成二十八年五月定例評議員会における評議員提出決議案件等の処理結果」「平成二十八年神社本庁業務報告」、決算関係の「一般会計歳入歳出決算」「各種資金及び保管金会計収支計算書」、「財産目録」、「事業会計決算」、「火災地震相互共済会計収支計算書及び財産目録」、「神社賠償責任保険会計収支計算書及び財産目録」が上程され一括承認された。次に本庁庁舎「エレベーター更新工事」についての議案が上程され議決された。

最後に田中総長から「職員の処分問題については忸怩たる思いがある。これからは神社人が結束をして、神職自らが率先して役割を果たさなければならない」と述べられた。

全国教化会議

教化委員会　副委員長　津金八千代

去る十一月二十八、二十九日の両日、神社本庁に於いて『新たな教化実践目標を軸とした教化活動の構築に向けて』「～各種調査結果から考える教化活動の在り方～」を主題とする、平成二十九年度全国教化会議が開催された。全国より関係者七十六名が参加、本県より私津金八千代とオブザーバーとして神社庁より金子雄紀主事補が出席した。

先ず二十八日、皇學館准教授板井正斉先生による『新たな教化実践目標を最近の社会調査結果から考える』（神社・神職に関する実態調査」および「神社に関する意識調査」）を中心に』と題した基調講演があった。

全国的に進行する共同体意識の希薄化や少子高齢化・過疎化への危機感がある中で、両調査の分析により、問題点を炙り出し、その解決法の参考として、人々に神道の心を浸透させる為には社会貢献と地域活動への取り組みの〈過程〉の重要性と、「神社ブーム」を牽引している二十～三十代女性をターゲットに新たな施策を考案実施する事を提示して下さった。

その後、今期の主題「家庭のまつりと地域のまつりの振興を目指して」の活動と展開の為にたてられた五つの教化実践目標の内第Ⅲ「家庭祭祀・年中行事の振興を図り、文化、伝統の継承に努める」についての分科会に参加した。特記すべき事は無く、ケーブルテレビ、ラジオ、新聞等、各種メディアによる広報活動の事例が主であった。行政や教育機関と協力し、将来を担う子供達との鎮守の森でのふれ合い活動の事例が発表された。また、共通の議題として「御大典」については、皇室を一般の方々に認知して頂く良い機会である為、分かり易く、若者向けに公報活動を展開して欲しいなどの意見が交わされた。

今回の会議に出席して、神社をお守りする一神職として何が出来るかを真剣に考え、神社関係者の方々と協力し合い、良き日本の伝統文化を次世代に継げて行きたいと痛感させられた。

平成二十九年度 神社関係者大会

平成二十九年度の神社関係者大会が昨年十月二十四日、コラニー文化ホールにて開催された。

第一部は神宮大麻暦頒布始祭が、峡北支部（石原貞夫斎主以下五名）の奉仕、神道雅楽会（秋山忠也会長以下五名）の奏楽、女子神職会（渡邊ちさ以下二名）の「豊栄の舞」奉奏により厳かに斎行された。祭典の終わりに神宮大麻・暦が石原斎主より根津庁長に授けられた。続いて、根津庁長より各支部長に神宮大麻・暦が頒たれた。その後、神宮の鳥海芳行禰宜より講話を頂いた。

第二部の式典は小佐野副庁長の開式の辞で始まり、神宮遥拝、国歌「君が代」斉唱、中村神社庁理事の先導による敬神生活の綱領唱和、物故者の御霊に黙祷の後、根津庁長より式辞が述べられた。次いで、中込総代会長の挨拶がなされた後、参事より庁務報告が行われた。

功績表彰では、神社庁表彰規程に基づき厳正なる選考、審査により決定した、平成二十九年度山梨県神社庁規程表彰者五名に対し、代表者が登壇し、根津庁長より表彰状が授与された。

次に、山梨県神社総代会表彰規程に基づき厳正なる選考、審査により決定した、平成二十九年度山梨県神社総代会規程表彰者三十六名に対し、代表者が登壇し、中込総代会長より表彰状が授与された。

次に、神社本庁規程表彰者四名に対し、代表者が登壇し、神社本庁統理北白川道久様（御名代神社本庁副総長吉川通泰様）より表彰状が伝達された。

次に、全国神社総代会規程表彰者二名に対し、代表者が登壇し、中込総代会長より表彰状が伝達された。

次に、神宮大麻頒布に尽力した神職六名と二支部に対し、代表者が登壇し、神宮大宮司小松揮世久様（御名代神宮禰宜鳥海芳行様）より表彰状が伝達された。

次に、めでたく米寿を迎えられた一名の神職に、長寿のお祝い記念品が贈呈された。

次いで来賓の祝辞があり、神社本庁統理北白川道久様（御名代神社本庁副総長吉川通泰様）、神宮大宮司小松揮世久様（御名代神宮禰宜鳥海芳行様）、神道政治連盟会長打田文博様（御名代神政連総務会長藤原隆暦様）、自民党山梨県連会長代行山梨県議会議員皆川巖様、参議院議員赤池誠章様、衆議院議員堀内詔子様、衆議院議員宮川典子様の七名の方が、それぞれの立場から祝意を表した。

来賓の方々の紹介、祝電披露の後、披表彰者を代表して、北都留支部総代会会長棚本佳秀氏より謝辞があり、次いで堀内邦満総代会副会長の先導により聖寿の万歳が奉唱され、佐々木副庁長の閉式の辞によって滞りなく大会は幕を閉じた。

被表彰者抱負

氷川神社
宮司　髙野正興

平成二十九年度神社関係者大会におきまして、神社庁規定表彰を根津神社庁長より授かりました。ご配慮を頂きました神社関係者の方々には、心より感謝いたします。

思い返せば、曽祖父の髙野正誠が、明治十年にフランスのトロワ市にワインの醸造技術を習得する為に旅立ってより百年目の年、家の蔵より正誠の醸造したワインが、見つかり全国ニュースとなり、日本のワインの歴史として周知されたなか、旧勝沼町の主催により、その功績を称えたワインの碑が、建立されました。その碑の除幕の祭祀に来賓である父に代わって初めて神事に関わってから、四十年の月日が、経ちました。その間兼任神職として、各神社の維持、氏子の教化、四社の社殿の建て替え、社殿の修復など各神社の氏子の方々と力を合わせてやってまいりました。そしてこの度、還る暦の齢となった時に、表彰を受けたことは非常に感慨深いものがあります。これを機に初心に戻り、諸先輩の教えを受けて神社界の発展に貢献したいと思います。

神宮新穀感謝祭 支部報告

甲府支部

武田神社　巫女

小島彩那

平成二十九年度新穀感謝祭に参加をさせていただきました。

今回は、一日目に伊勢神宮の外宮、内宮を参拝しました。はじめての伊勢神宮へのお参りでしたのでどのようなところなのだろうという期待と、少しの緊張を抱きながらの参拝となりました。外宮では参拝ののち神楽をみました。私は最近浦安の舞を練習しはじめた初心者ですが、そんな私でもわかるほど美しい舞でした。これから練習するたびに思い出しながら、お手本に少しずつでも近づけるよう努力していこうと思わせてくれる舞でした。内宮では外宮とはまた違う空気感の中での参拝となりました。内宮は一本一本の木が太く力強く生えていて、長い時間をかけて成長して、伊勢神宮にお参りに来る参拝者の皆様をみてきたのだろうかと考えながらお参りをしました。

今回の新穀感謝祭に参加させていただきとても貴重な経験をすることができました。これも不安でしかたない私を支えてくれた神主さんたちをはじめ、素敵な笑顔と楽しいお話で緊張をといてくださった崇敬者の方々のおかげです。また機会がありましたら参加をさせていただきたいと思いました。

峡中支部

支部長　塚川宣行

去る十一月十六・十七日に、今年の神宮新穀感謝祭参拝の旅が催行されました。峡中支部ではバス二台に分乗し、神職・総代等八十七名が参加しました。

峡中支部は、内宮での御神楽奉納は人数が多すぎてあまりよろしくないとの意見から、今年は二日目に外宮での御神楽奉納となりました。

早朝六時頃より各地を出発し初日の目的地、静岡県島田市の大井神社へと向かいました。途中渋滞があり到着が遅れましたが、無事に正式参拝を終え、会館にて湯茶の接待をうけ、片川昭壽名誉宮司様の挨拶を頂き、大変有意義に過ごすことができました。

大井神社の御祭神は水の神（彌都波能売神）土の神（波邇夜須比売神）日の神（天照大神）の三柱で共に女神様であらせられることから、安産の神、女性や子供の守護神として広く信仰されています。日本三奇祭の一つ「帯まつり」が有名です。

神職さん達のお見送りを受けながら大井神社を後にして伊勢へ向かい夕刻、二見興玉神社を参拝しホテルへ向かいました。夕方の二見浦も風情があって良いものです。夜にはホテル内で懇親会が開かれ、早朝からの疲れも感じさせないほど盛り上がり、カラオケをする人、色々と情報交換をする人など、おおいに懇親を深められた楽しい一時でした。

翌十七日は九時より外宮にて御垣内参拝をした後、峡中支部だけで御神楽奉納をしました。少人数だったので良く拝見できたと皆満足した様子でした。それから内宮へと向かい、御垣内参拝を終え自由時間、昼食となりました。とてもスムーズに事が運びいつもより多くの時間おはらい町、おかげ横丁の散策ができ皆喜んでいました。私も久しぶりに別宮「荒祭宮・風日祈宮」を参拝し、すがすがしい良い気分になりました。

古来より、お伊勢参りは二見浦（二見興玉神社）で身を清めてから外宮その後内宮と参拝するのが正式と言われてきました。今回そのコースで参拝できたことを喜び感謝しつつ、午後一時神宮を出発し帰途につきました。

不活動神社対策協賛金

平成二十九年十月一日から平成二十九年十二月三十一日までに三十三名の皆様より壱拾五萬九千円の御協賛を戴きました。厚く御礼申し上げます。

東山梨支部
御協賛者　五名
御協賛金　弐萬七千円也

御芳名
山梨市　東後屋敷　木宮神社　堀内邦満
山梨市　牧丘町　金櫻神社　山下俊幸
山梨市　牧丘町　金櫻神社　津野浩二
山梨市　牧丘町　金櫻神社　駒井眞吾
山梨市　牧丘町　金櫻神社　駒井好文

東八代支部
御協賛者　二十四名
御協賛金　壱拾二萬円也

御芳名
笛吹市　石和町　石和八幡宮　深澤孝行
笛吹市　石和町　石和八幡宮　高野博夫
笛吹市　石和町　石和八幡宮　野澤儀春
笛吹市　石和町　石和八幡宮　矢花克己
笛吹市　石和町　石和八幡宮　菊島一良
笛吹市　石和町　石和八幡宮　横瀬隆
笛吹市　御坂町　迎早浅間神社　小野政雄
笛吹市　一宮町　市之蔵　神明神社
笛吹市　一宮町　神明神社　鈴木昭夫
笛吹市　一宮町　神明神社　山口栄治
笛吹市　一宮町　神明神社　堀内詔一
笛吹市　石和町　四日市場　諏訪神社
笛吹市　一宮町　牛飼神社　田辺真一
笛吹市　御坂町　戸藏神社　堀内文藏
笛吹市　一宮町　浅間神社　三井晴則
笛吹市　一宮町　浅間神社　駒井康久
笛吹市　一宮町　浅間神社　雨宮良哲
笛吹市　一宮町　浅間神社　古屋博二
笛吹市　一宮町　浅間神社　井上一巳
笛吹市　一宮町　浅間神社　風間武
笛吹市　一宮町　浅間神社　有馬満
笛吹市　一宮町　田中　白山神社
甲府市　右左口町　右左口　五社神社
甲府市　右左口町　右左口　王子神社

峡北支部
御協賛者　四名
御協賛金　壱萬弐千円也

御芳名
韮崎市　南下條　福地八幡神社
北杜市　白州町　横手　駒ヶ嶽神社
北杜市　大泉町　逸見神社　森越義建
北杜市　白州町　巨麻神社　小沢和弘

まんが古事記

いなばのしろうさぎ（第二話）

「全国神社保育団体連合会」提供
問い合わせ　東京都渋谷区代々木一―一―二
神社本庁内
電　話　〇三―三三七九―八〇一一
一冊　一二〇円

お子さん、お孫さんと、
神話の世界をお楽しみ下さい。

あらすじ

大国主命には沢山の兄弟がいらっしゃいました。命はある時、お兄さんたちのお供で旅に出ました。すると、海岸で赤裸になったうさぎが泣いていました。そこで、命がやさしく声をおかけになると、うさぎはその訳を話しました。

そのうさぎは、海の向こう側に住んでいましたが、いつもこちら側に来てみたいと思っていました。でも海は広くてとてもうさぎには泳いで渡ることが出来ません。そこでうさぎは一計を案じ、海に住むワニに声をかけるのでした。

※昔はサメ類をワニと呼んでいました。

オロオロ
オロオロ
オロオロ
まえよりももっともっとイタイヨー
ヒリヒリ
ヒリヒリ

そこに重い荷物でおくれた大国主命がとおりかかりました
どうしてないているのだ……？その赤はだかのからだはどうしたのだね！

わたしはあのむこうの淡岐の島にすんでいたのですが……
いちどこの国にわたってみたいといつもおもっていました

ところが
わたしは
こんな広い
海をおよぐ
ことはでき
ません
なんとか
方法は
ないか
なあ…？
そうだ
！
バシャ
ワニを
りようして
やろう!!

オーイ
ワニくーーん
話があるん
だーー！
なんだ
いって
みろ
！
きみたちの
なかまとぼくたち
ウサギのなかまと
どちらがおおいか
くらべっこ
しようよ……
そりゃ
ボクたちの
ほうがおおいさ

いいかい！
ここから
むこうにみえる
気多のみさき
までズーッと
いちれつに
ならんでよ
……!!
そしたら
ボクが
ピョンピョン
そのうえを
とんで
かぞえるよ
さっそく
なかまを
あつめ
よう
だまされたとも
しらないワニ
たちはずらりと
背中をならべ
ました
ワーイ！
たくさん
ならんだな
じゃあ
かぞえるぞ
ピョン
ピョン
ピョーン
一つ！
二つ！

（一八一号　第三話へ続く）

神政連第十六回時局対策連絡会議

神政連山梨県本部
幹事長　乙黒　洋

十月三十日より三十一日の両日に亘り、神道政治連盟第十六回時局対策連絡会議が、東京都千代田区の自由民主党本部に於いて開催され、神政連山梨県本部藤巻青年隊員とともに参加した。

第一日目には、開会式を神道政治連盟　打田文博会長の挨拶、来賓である山口泰明衆議院議員・自由民主党組織運動本部長の祝辞を頂戴した後に、元防衛事務次官の守屋武昌氏と、元陸上自衛隊西部方面総監で第一次イラク復興支援郡長も務めた、番匠幸一郎氏よりの基調講演を拝聴した。

守屋氏は「九条と日本の防衛政策」と題し、米国と日本との歴史的関係を解説しつつ、日本の存在が米国に大きな影響を与えたこと、ユーラシア大陸と日本列島の位置関係から、中露などの進出に対して日本が要であり、日米安全保障条約の重要性を説いた。さらに自衛隊が、国際法において軍隊としての取扱いを受けない点から、自衛隊が不利益を被る可能性があることを説き、憲法改正により自衛隊の存在を明確にすべきであると締め括った。番匠氏は、「自衛隊の海外派遣から見る世界標準―イラク派遣を振り返りながら―」と題して、イラク共和国・サマーワの人道支援活動を回顧し、派遣は戦闘行為ではなく、あくまでも復興支援を目的としたため、砂漠用の軍服である迷彩服は着用せずにいたことや、派遣中は通常の国内における訓練時と同様の規律を以て活動し、その姿が現地の人々や他国の派兵軍から賞賛されたこと、そして隊員たちは、「武士道の国の自衛官として誇り高く活動しよう」と呼びかけあっていたことなど、海外派遣という厳しい環境の中での経験を基に、裏話を交えながら講演された。

続いて、参加者が五班に分かれて、「憲法への自衛隊明記の意義と我々が取り組むべき課題」を主題に分散会を行い、神政連国会議員懇談会副幹事長の山谷えり子参議院議員、衆議院議員の辻清人、門山宏哲、長尾敬、木原稔、簗和生の六氏が各班に参加し、主題に基づく班別意見交換会を行った。私は長尾議員の班となり、同氏からの、「現行憲法第九条の条文をどのように改正しながら、自衛隊の存在を明確にしていけばよいか」の提議を受け、班員全員の意見を班長が聴取しながら、活発な論議を交わした。

翌日の第二日目には、城内実衆議院議員が司会を務め、各班の発表者が分散会の内容を発表し、その発表を踏まえつつ全体会として、航空自衛隊元自衛官である、宇都隆史参議院議員が「現行憲法下における自衛隊活動」について講演され、自衛官として得た経験を基に、現行憲法下での自衛隊活動に関わる諸問題、さらには第九条の改憲に向けては、更なる国民的議論が必要であると述べた。その後、城内・宇都両氏が質疑応答を受けつつ、「国防という国家にとって最重要任務にあたるのは自衛隊であり、国民がその存在意義の認識を高めていくことが必要であり、そのためには憲法改正が必要である。国会議員や地方議員と協力連携し、より多くの人々と国民運動を展開していくことが大事である。」と総括した。

神社庁神殿新嘗祭

南都留支部
支部長　上文司　厚

新嘗祭は、訓読して「にいなめのまつり」音読して「シンジョウサイ」と呼称し、十一月二十三日に宮中において斎行される。天皇陛下が御自ら新穀を天神地祇に捧げ、陛下も親しくこれを聞し食される。全国各神社でも大祭に位置付けられ、最も重要な祭祀の一つ。二月に斎行される大祭の祈年祭で年穀の豊穣と重なり合って、皇室の安泰、国土の安寧、有形無形あらゆる産業の繁栄を祈り、それを幸はへ給うた神に奉謝するのが新嘗祭である。神社最重要な祭祀が例祭であるならば、神道最重要な祭祀が新嘗祭ともいえる。

神社庁神殿においても過ぐる十一月二十日、当番の南都留支部員によって執り行われた。斎主は金子寿元、副斎主は宮下重範、祭員は濱武尊、髙阪雄次、坂本圭の五人奉仕、山梨県神道雅楽会の奏楽の中、神社庁包括全神社の御祭神に今年の豊穣、隆昌を謝び奉り恙無く仕え終えた。根津庁長、中込総代会長以下県内神職、総代の参列を得たが、例年になく極少人数だった。夫々に事情があっての欠席だったと察するが、重儀にも関わらずの斯様な状況は聊か気になることだった。

祭典を斎行して

遷座祭を斎行して

笠森稲荷大神社
宮司　高原光啓

当社はかつて甲府市城東を流れる濁川沿いに鎮座していた。濁川は富士川舟運に連なる河川で、鉄道が普及する以前は物流の役割を担っていたとされる。旧笠森稲荷はその濁川が大きく曲がった辺りに位置し、船着き場を見下ろすように建てられていた。それゆえ、近隣には商人や船員が利用する温泉宿が点在していたという。

こうした地理的状況から、一度大雨が降れば水害の危険があり、河川改修の必要性が訴えられていた。また、社前を走る道路を拡幅し、甲府市中心部を東西に走る和戸町竜王線が戦後まもなく策定されていたのである。

このような背景のなか、道路拡幅及び河川改修が正式に示され、境内地すべてが濁川改修部分にかかることが判明したのは平成二十一年のことであった。これを受け、移転対策会を設置、移転のための浄財を募ることとなった。その期間は五年の長きに亘り、氏子の理解の深さが窺われる。筆者が父から宮司職を引き継いだのはこの頃のことであった。初仕事に移転が有るかもしれないと受け止めていたことを思い出す。

相手方となる山梨県が当社に対し、金額的交渉を示してきたのが平成二十八年秋で、以後本格的に協議が始まった。計画では全境内地がかかってしまい、やむなく移転せざるを得ない。神社の移転という重大事に際し、役員会・総代会で移転を決議し、建設委員会を設置、社殿建設にあたることとした。

この間、手続きは神社庁の飯田参事をはじめ庁職員が懇切に対応して頂き、本庁への申請に漕ぎ着けることができた。統理の承認、関係者への公告を経て、県との契約締結に至った。当初の問題は新社地選定であったが、幸い氏子区域中央に位置し、尚且つ従前より広い規模の土地を取得することが叶った。これは神明の導きという他ない。

次いで、建設業者との契約を経て、平成二十九年六月に地鎮祭斎行、着工の運びとなった。九月には上棟祭を斎行、散餅を行い氏子中の喜ぶ姿が見られたことも良き思い出である。

工事は順調に進み、いよいよ竣工の時を迎えた。先ずは遷座祭である。本来であれば夜の内に遷御を行い、翌日の祭儀と続くわけだが、燈火用具の備えが難しく、高齢の総代が大半であることを鑑み、早朝からの斎行となった。

遷座祭当日早旦。雲一つない快晴に、召立の声が響くのを背で聞きながら、誰も居ない殿内で独り御祭神と向かい合っていた。緊張の極みのなか「御」を奉戴し、列次に加わる。「ご出御」の発声とともに警蹕がかけられた。

弱肩に太襷掛け進み出す
檜の香る　新宮へと

早朝にも関わらず、また事前の周知には及ばなかったが、沿道の氏子が低頭し、「御」を奉送していた。新宮では奉迎する氏子も多く、敬神の心に胸が熱くなった。その時、新社殿から入御を伝える太鼓の音が鳴り響いた。

みあらかに神留まり坐せ
大神よ
氏子の祈りを
永久に受け止め

新殿真中に「御」を奉安し、ここに笠森稲荷大神がお遷りになったのである。参列者は誰もが神霊の息吹を感じたことであろう。

今、振り返って思うことは、神社護持の尊さと大変さである。移転に伴う数多の手続きと、建築諸祭の斎行を通じ、一社を預かる責務の大きさを改めて感じる。と同時に、神明に仕える喜びを感じるばかりである。このことは読者諸氏先輩諸賢には既に自明のことかもしれないが、筆者にとっては自らの体験から得られた実感そのものである。

「子供の自由画コンクール」開催報告

国旗掲揚推進委員会

去る平成二十九年十一月一日から五日までの五日間の日程で山梨市万力の山梨市民会館にて「子供の自由画コンクール展示会」が国旗掲揚推進委員会の主催により、山梨県神社庁・山梨県神社総代会の協力と、山梨日日新聞社・山梨放送・テレビ山梨・山梨ＣＡＴＶの後援を得て開催致しました。

コンクールでは、テーマを①「世界で活躍する日本人」、②「世界で活躍する未来の僕たち私たち」の二種類のテーマに定めて、山梨市内の保育園幼稚園に通う年長組の園児を対象として、募集を行いました。

募集締め切りまでに①のテーマで七点、②のテーマで二十八点、併せて三十五作品の応募をいただきました。

応募作品はどれも、柔軟な発想と感性によって描かれた素晴らしい作品ばかりでしたが、厳正な審査のもと金賞二点、銀賞四点、銅賞十点の合計十六点が選ばれました。

展示会では金賞・銀賞・銅賞を始め応募作品三十五作品全てを展示し、併せて、一般社団法人国旗協会主催の「国旗のある自由画コンクール」の金賞受賞作品十四点を展示しました。

一般社団法人国旗協会主催の「国旗のある自由画コンクール」は毎年四才から小学六年生のまでの児童を対象として行われており、今回はその中でも平成二十六年度・二十七年度の金賞作品を展示しました。

展示期間中には、天候にも恵まれ応募いただいた園児やそのご家族方を始め、多くの方が子供たちの作品に見入っていました。

展示会最終日までに一二〇名を超える多くの方にご来場いただき、無事に展示会を終えることができました。

「子供の自由画コンクール」に協力頂きました全ての皆様に御礼申し上げます。

最後に受賞者の紹介をいたします。

尚、受賞者は保護者の方より掲載の許可を頂いた方のみ掲載しております。

受賞者（順不同）

金賞

八日市場保育園
おおたに　らいご　くん
作品名
「がんばれ！サッカーせんしゅ」

金賞

後屋敷保育園
なかむら　ゆな　ちゃん
作品名
「せかい一のパティシエ」

銀賞

岩手保育園
のざわ　なな　ちゃん
窪平保育園
やまなか　しょうた　くん
窪平保育園
なとり　はるま　くん
八日市場保育園
こばやし　ゆうすけ　くん

銅賞

岩手保育園
いわと　てんま　くん
岩手保育園
はしづめ　はるく　くん
岩手保育園
まつい　ゆうと　くん
窪平保育園
さいぐさ　かんた　くん
窪平保育園
おぎはら　こうや　くん
窪平保育園
いわさき　れいみ　ちゃん
八日市場保育園
つるた　るいと　くん
八日市場保育園
かわぐち　さな　ちゃん
八日市場保育園
かずの　らいか　ちゃん
つつじ幼稚園
こめいじ　すずな　ちゃん

年男
年女

平成三十年 戊戌

年男として

黒戸奈神社　禰宜　田邊芳弘

人生七回目戌年の年男である。今は何とか仕事もできるし特に不自由なく過ごして居るが、何時まで今の健康状態が保てるかが気になるこの頃です。

二回目の年男は小学生の時で戦時中でした。二回目の年男は戦後で青春時代、青年団活動が印象に残ります。三回目、四回目は結婚して子育てと農業に従事していた。其の頃大きな事故に出逢い回復するのに三年程要した。そんな事もあって体調管理には特別配慮してきた。五回目の年男、還暦を迎え晩年の健康を考えて微生物の働きに関心を深め沖縄で発見された農業有用微生物に出逢い、「バイオ技術による有機栽培の植物を作って食べたい」とその資材の製造販売のために、株式会社を設立して営業を展開し、自分の田畑はその試験圃場として研究を進め、自分で食べるものはその微生物資材で作ったものを食べて二十四年を経過し、今その成果を感じている。

酒、味噌、醤油、納豆等の発酵食品はその目的に合った微生物の介在による発酵で美味しい優れた食品に生まれ代わります。そんな微生物の働きを農業に応用してバイオの力で作った米、野菜、果物等を自分で作って食べられる贅沢を噛みしめているこの頃です。還暦を迎えてから後は神明奉仕と農業、健康のことを考えながら過ごして来たが年齢を重ねてきた今は自然と共合し、又自由な生活が幸せかと思っている。次の八回目の年男の歳を迎えられる事を願いつつ……

年男として

御崎神社　宮司　上條　晃

振り返れば、凡そ「インスタ映え」もしない半生であったと反省しきりの中、五度目の年男を迎える事となりました。

抑々己の事は棚に上げ、他人様のお年頃は忖度し、勝手に物申しつつ、此れも職業病の一種だと言い訳し、反省の日々重ね来て迎える年男。最近ふと眼にする「相田みつを」の含蓄のある言葉の数々が今更ながら身に沁み入る今日この頃・・・【あのねぇ　自分にエンジンをかけるのは　自分自身だからね】と眼にすればエンストがちな自分に鞭打ち、【あとじゃできねんだよなあ　いまのことは　いましかできぬ】と追い込まれ、更に【毎日少しずつ　それがなかなかできねんだなあ】と眼にすれば慌てつつ、【人生において　最も大切な時　それはいつでも　いまです】などと自分を慰め、素早く立ち直り今日も元気に雑事の波に流され過ごす日々に物思い続けて今日此処に至れり。

先日、思わぬ機会に恵まれ強行軍で初めて訪れた比叡山延暦寺、観光客も疎らな早朝の佇まい神宮とはまた別の空気の中、一歩分け入る山道の中で感じた「千日回峰行」の過酷さの想像と動じない静寂の中に悠久の歴史に一時触れる事が出来、久し振りに自分の時間を取り戻した感。と、想う間もなく【かんがえてばかりいると日がくれちゃうよ】、との重い言葉に現実に引き戻される。何れ大した事は出来ぬのなら今後は心身ともに「健康ファースト」に心掛け、明るい前期高齢者を目指してみましょうか。

人生の道程はまだまだ遠いようですから。

祭典日程

2・3　稲積神社節分祭　大嶽山那賀都神社節分祭　甲府市中央大神宮例祭・節分祭　富士河口湖町船津八王子神社節分祭　富士河口湖町船津筒口神社節分祭　大月市初狩町下初狩八幡神社節分祭

2・4　市川三郷町上野表門神社一之酉祭典

2・8　身延町八日市場八幡神社祈年祭　稲積神社針供養　御坂町二之宮美和神社湯立祭

2・11　甲府市宮前町八幡神社建国祭　甲府市国玉町玉諸神社建国祭・祈年祭

2・15　市川三郷町宮原浅間神社紀元祭　山梨市下栗原大宮五所大神祈年祭　南アルプス市藤田八幡社紀元節祭

2・17　富士吉田市上暮地神明社祈年祭　酒折宮祈年祭、甲府市宮前町八幡神社祈年祭　塩山上萩原神部神社祈年祭　牧丘町隼諏訪神社祈年祭　韮崎市穴山町穂見神社祈年祭　富士吉田市新倉富士浅間神社祈年祭　富士吉田市松山松尾神社祈年祭

2・21　大泉町谷戸逸見神社祈年祭

2・25　北杜市小淵沢北野天神社天神祭

3・1　弓削神社祈年祭　忍野村忍草浅間神社筒粥祭　忍野村内野浅間神社筒粥祭

3・11　甲斐一宮浅間神社講社大祭・山宮神幸祭　甲府市下帯那町諏訪神社祈年祭

3・20　甲府市愛宕町愛宕神社春季皇霊祭

3・21　一宮町橋立甲斐奈神社春季例祭　高根町箕輪建部神社祖霊社例祭

3・24　昭和町西条義清神社春祭り

3・25　一宮町末木両之木八幡宮春季例祭　富士川町天神中条天神中条天満宮大祭　甲斐市篠原八幡神社春季例祭　南アルプス市鏡中条巨摩八幡宮春季例大祭

年男として

淺間神社　禰宜　植松真芳

昭和四十五年、当時父は相模国一之宮寒川神社に奉仕していた為、私は神奈川県で生を受けました。二歳の頃母方の実家に越し、以降は一宮町の自然に囲まれ大過なく育ちました。

学生の頃、将来について考えることは時折ありましたが特に定まるには至らず、高校卒業後は國學院大學に入学、日に異に勉学に励み・・・無事卒業。流れに任せ神奈川県の神社に奉職、気づけば神職になっていました。今思うに『これまでの流れの全ては、神さまが定めた道の過程なのだ』と思います。

神職になり今日まで心がけてきたことがあります。日々の神前奉仕は当然のことですが、家に於いても毎日神棚に手を合わせる事です。幼い頃より白衣袴で神社に奉仕する父の姿を目にし、時には境内清掃を手伝い、家には神棚がある環境で育ったので、社会に出て独りの生活がスタートしても自然に神棚を設け、家での祭祀を行うことに違和感はありませんでした。毎朝、一日の始まりの挨拶、家、家族、兄弟の安寧を祈り神社へ。奉仕を終え帰宅し、一日の無事とご加護に感謝します。このような何気ない穏やかな日常が繰り返され、一年が平穏に過ごせることはこの上ない幸せです。何気ない日常に感謝すること、平穏な日々を祈ることをこれからも続けて参りたいと思います。

平成三十年は四回目の年男、年を重ねて人として神職として正しく在るか考える昨今です。浅学非才な自分が今日まで来れたのは、ご指導くださった先輩方のお陰と感謝しております。これからも変わらぬご指導ご鞭撻を賜り、更なる研鑽を積み神明奉仕に勤しんで参りたいと思います。

三度目の年男を迎えて

淺間神社　権禰宜　津金善美

早いもので、今年で三度目の年男を迎えます。三十代も半ばを越え、一度風邪をひくと以前よりも治りが遅く、体力の衰えを感じずにはいられなくなってきました。

思えば大学卒業後、一度は就職したものの脱サラし、好きな音楽活動に明け暮れる二十代を送ってきました。ライブハウスやカフェ、レストランでの演奏をはじめ、学校の文化祭などにも出演させて頂きました。神社界に於いては根津庁長様にお声掛けを頂きまして、十年以上にわたり稲積神社の正ノ木祭で奉納演奏をさせて頂いております。また、CD音源を制作し、多くの皆様に私の作った曲を聴いて頂く貴重な経験もする事が出来ました。

そんな私が神職を志すきっかけになったのは「邪魔にはならないから取れる時に神職の資格を取っておけ」という母の言葉でした。それまで特に目を向けてこなかった「神道・神職」への道を初めて促された瞬間でした。言われるままに実際にこの世界に足を踏み入れてみると、伝統文化としての神道の在り方や、生活に根付いた神道の在り方など、それまでの何気ない日常への価値観が変わるような新鮮な出来事ばかりでした。

浅間神社にご縁を頂いてから早六年、神職としてはまだまだ未熟な私ですが、基本に忠実に、これまで学んだ事や新鮮に感じた事を念頭に置き、日々研鑽を重ね奉仕して参りたいと思っております。拙い内容ではございますが、年男としての年始のご挨拶とさせて頂きます。これからも御指導御鞭撻の程宜しくお願い致します。

3・29　勝沼町菱山古宮太神社春季例大祭
3・30　塩山上萩原神部神社例大祭
3・31　御坂町二之宮美和神社例大祭宵祭
4・1　甲府市住吉神社春季例祭・御幸祭　御坂町二之宮美和神社例大祭　市川三郷町上野表門神社御幸祭　南アルプス市藤田八幡社春季例祭　韮崎市穴山町御名方神社春季例祭　韮崎市穴山町諏訪神社春の例大祭
4・3　石和町市部石和八幡宮春季例大祭　山梨市正徳寺唐土神社春例大祭　勝沼町等々力諏訪神社春季例大祭　石和町川中島比枝神社例大祭
4・4　春日居町鎮目山梨岡神社例大祭（～五日）　牧丘町西保下菅神社春例大祭
4・5　山梨縣護國神社春季例大祭　八代町北熊野神社春季例祭
4・8　鈴宮諏訪神社例大祭　天津司神社春季例大祭　長坂町長坂上条穂見諏訪十五所神社春季大祭　大月市浅利神田神社春季祭典
4・10　甲府市善光寺柴宮神社春例祭　韮崎市韮崎町岩下勝手神社春季例祭
4・12　武田神社例祭　牧丘町倉科黒戸奈神社例大祭　韮崎市藤井町福地八幡神社春季例祭
4・14　富士吉田市大明見小室浅間神社例大祭
4・15　甲斐一宮浅間神社例大祭大神幸祭　甲府市中央甲斐奈神社例祭　甲府市国玉町玉諸神社例大祭・三社御幸祭・郷土の祭・玉諸地区巡行みゆき祭　甲府市飯田八幡神社春季例祭　酒折宮獻詠祭　甲府市高畑住吉神社春の例大祭　甲斐市長塚長塚神社春の例大祭　富士河口湖町浅川白山神社春祭
4・17　大嶽山那賀都神社例大祭（～十八日）
4・18　都留市生出神社奥宮祭
4・19　桐原軍刀利神社例大祭　富士吉田市新倉富士浅間神社春祭・例大祭
4・20　富士吉田市新屋蓮神社春祭り宵祭

「重要文化財の指定を受けて」

宮司　上文司　厚

当社に現存する建物の内、最も古い武田信玄公造営の「東宮本殿」、豊臣時代に建立された「西宮本殿」、江戸時代初期に建立の「本殿」の三棟は早くより重要文化財に指定されていた。加えて此の度、富士講全盛時代の幕開け時の享保十九年（一七三四）から宝暦八年（一七五八）に建立された幣殿及び拝殿、透塀及び霧除・恵毘壽社、神楽殿、手水舎、隨神門、社務所、福地八幡社、諏訪神社拝殿の八棟の山梨県指定文化財が十一月二十八日の官報告示を以て重要文化財の国指定を受けた。前述の三棟は、昭和から平成にかけて適時に修理工事が行われ適切な維持がされてきた。しかし、此の度の八棟の内、四棟は本格的な保存修理がされて来ず、直ぐにでも修理が必要なものもある。特に幣拝殿は傷みが著しい上に、彼の平成二十六年豪雪により屋根が致命的損傷を受け、銅板の屋根にガルバリウム鋼板を被せるという応急手当をせざるを得なかった。斯様な現状を氏子、崇敬者ほか関係各方面からも心配していただいている。重要文化財に指定されたことで今後、富士吉田市、山梨県そして文化庁と連携しながら、修理実現に漕ぎつけなくてはならない。

ともあれ、富士信仰の大きな力で出来上がり受け継いで来た無類の宝が評価され、前近代に建立された建物群が全て重文になったことは、誠に光栄なことである。

今後の予定

○神社庁　祈年祭のお知らせ

神殿祈年祭を左記の日程で斎行いたします。

記

一、日　程

二月十三日（火曜・先負）

一、神殿祈年祭　午後一時三〇分

一、講演　午後二時三〇分

講師　清水　祥彦　先生

○靖國神社参拝旅行

神道政治連盟山梨県本部では、恒例となりました靖國神社参拝旅行を左記の通り実施致します。

記

一、日　程

三月二十七日（火曜・赤口）

一、昼食会場

横浜中華街　重慶飯店

一、旅行代金

九、五〇〇円

女子神職研修会の案内

女子神職の神職祭式研修会を左記日程で実施致します。

記

一、日　程　二月十九日（月曜・仏滅）

一、場　所　山梨県神社庁

浦安の舞研修会の案内

日　時　三月二日（金）

受　付　八時三十分

開　講　九時

場　所　山梨県神社庁

支部研修会の案内

恒例の神職祭式研修会を左記の日程で実施致します。

神職は生涯の研修を通じて己を磨くことにより氏子・崇敬者の信頼を得ることができます。他支部の研修を受けることもできますので、積極的にご参加ください。

記

一、日時と場所

①甲府支部

日　時　五月中旬を予定

場　所　山梨県神社庁

②東山梨・東八代支部

日　時　二月二十七日（火）

場　所　山梨県神社庁

③峡南・峡中・峡北支部

日　時　三月十九日（月）

場　所　山梨県神社庁

④南都留・北都留支部

日　時　五月二十九日（火）

場　所　未定

受　付　八時三十分

開　講　九時